

# CentreCOM® 9006SX/SC リリースノート


この度は、CentreCOM 9006SX/SC をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1. ソフトウェアバージョン 2.2.0J

### 2. メニューから削除された項目


ソフトウェアバージョン 2.0.0J から 2.1.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が削除されましたので、ご了承ください。

#### 2.1 ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上のシステム)について

 参照「オペレーションマニュアル」2-22 ~ 2-25 ページ

[ Administration ] メニューの [ Update software in another system ] および [ Broadcast updated software to all systems ] オプションは、ネットワーク経由によるダウンロード機能がサポートされていないため、メニューから削除されました。


#### 2.2 ウェブからのソフトウェア設定について

 参照「オペレーションマニュアル」2-41 ~ 2-42 ページ

[ System Configuration ] メニューの [ Omega Options ] において、ウェブからのアクセス制限を設定する [ Web-based Omega Enabled/Exclude Web-based Omega ] オプションは、ウェブからのソフトウェア設定機能がサポートされていないため、メニューから削除されました。

ソフトウェアバージョン 2.1.0J から 2.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が削除されましたので、ご了承ください。

#### 2.3 ターミナル設定の Generic “dumb” terminal について

 参照「オペレーションマニュアル」1-14 ~ 1-15 ページ, 2-48 ページ

[ System Configuration ] メニューの [ Terminal configuration ] において、ターミナルの種類に合わせてソフトウェアを設定する [ VT100-compatible/ANSI Generic “dumb” terminal ] オプションはメニューから削除されました。これにより、本製品のターミナル設定はVT100-compatible/ANSI のみとなります。

### 3. 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.1.0J から 2.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 3.1 登録済みの VLAN ID を変更し、その VLAN の所属ポートを受信ポートとするスタティック MAC アドレスの登録を行った場合、VLAN 名が「Null (not configured)」となってしまう問題がありましたが、これを修正しました。  
また、スタティック MAC アドレスを登録後、その所属 VLAN の VLAN ID を変更すると、スタティック MAC アドレスの VLAN 名が「Null (not configured)」となってしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.2 VLAN ID が 255 以上に設定されている VLAN の所属ポートを受信ポートとするスタティック MAC アドレスの登録を行った後、システムをリブートすると、そのスタティック MAC アドレスが削除されてしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.3 通信中のポートでケーブルの抜き差しを繰り返した場合、ケーブルを抜いてもダイナミックに登録した MAC アドレスが削除されないという問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.4 ポートランキングが設定されたポートでソース MAC アドレスがブロードキャスト値 (すべて「f」) のパケットを受信した場合、そのポートで正しく通信できなくなる問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.5 ポートランキングが設定されたポートで Ping パケットを受信中に、ランキンググループのポートに接続されているケーブルをすべて抜くと、ダイナミックに登録した MAC アドレスをスタティック MAC アドレスとして登録してしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.6 Ping テストにおいて、対象となる機器が接続されているポートのケーブルを抜き差しした後、[ Ping a remote system ] を実行した場合、最長で約 10 分間通信ができなくなる問題がありましたが、これを修正しました。

---

## 4. 本バージョンでの制限事項

---


### 4.1 RMON 機能について

 「オペレーションマニュアル」 2-16 ~ 2-17 ページ

RMON alarm, event は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

---


### 4.2 マルチキャストアドレスの追加 / 削除について

 「オペレーションマニュアル」 2-99 ~ 2-102 ページ

[ MAC Address Table ] メニューの [ Multicast address ] において、[ Add MAC address ] および [ Delete MAC address ] オプションを使用したマルチキャストアドレスの追加、および削除は現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

---


### 4.3 Xmodem ダウンロード機能について

 「オペレーションマニュアル」 2-26 ~ 2-27 ページ

[ XModem software update to this system ] メニューを実行後、ソフトウェアのダウンロードをやむをえず中断する場合は、電源ケーブルを接続しなおしてください。

---

### 4.4 送信フレームの統計情報「Multicasts」について

 「オペレーションマニュアル」 2-14 ~ 2-15 ページ

[ Ethernet statistics ] メニューの「Transmit Statistics Graph」画面 / 「Total Good Transmits」画面において、他のポートで受信したソースアドレス未学習のユニキャストパケットは、「Multicasts」としてカウント表示されます。

---

### 4.5 SNMP 機能について

[ Administration ] メニューの [ Reset and restart the system ] 実行時(ソフトウェアリセット時)に出力されるトラップは、coldStart です。


---

### 4.6 設定変更時のご注意

システムの設定変更(ミラーリング機能設定をのぞく)を行った後は、[ Main Menu ] -> [ Administration ] とすみ、[ Reset and restart the system ] メニューを実行し、システムをリセットしてください。

---


### 4.7 QoS 機能について

 「オペレーションマニュアル」 2-74 ~ 2-76 ページ

本製品QoS機能は、ソースアドレス学習済みのユニキャストパケットのみ対象に制御しています。

---

### 4.8 1000BASE-X/1000BASE-Tアップリンクポートポートのポートミラーリング機能について

 「オペレーションマニュアル」 2-55 ~ 2-57 ページ

本製品のソフトウェア(プロトコルスタック部分)から送信されるパケット(BPDU、ARP reply、trap など)は、ミラーリングされません。

---

#### 4.9 スパニングツリー機能について

IGMPスヌーピングが動作している環境で、スパニングツリー機能を使用することはできません。IGMPスヌーピング機能とスパニングツリー機能は併用しないでください。

---

#### 4.10 1000BASE-Xポートについて

1000BASE-Xポート同士の通信において( AT-A15 同士のカスケード接続、CentreCOM 9006SX/SC同士のカスケード接続、AT-A15とCentreCOM 9006SX/SCのカスケード接続)、ソフトウェアバージョンの組合せによっては、正しく通信できない場合があります。1000BASE-Xポート同士の通信を行う場合は、必ずスイッチ本体を以下に示すソフトウェアにバージョンアップしてからご使用ください。

CentreCOM 8216FXL/SC : バージョン 2.0.0J 以降  
CentreCOM 8224XL : バージョン 1.2.12J 以降  
CentreCOM 9006SX/SC : バージョン 1.0.5J 以降

1000BASE-Xポートを使用する場合は、スイッチ本体に電源を入れてから、光ファイバケーブルの接続を行うようにしてください。また、通信に問題が発生した場合は、光ファイバケーブルの抜き差しを行うようにしてください。

光ファイバケーブルのTXもしくはRXのどちらか一方のみを抜き差ししないでください。光ファイバケーブルの抜き差しは、必ずTXとRXの両方を行ってください。


本製品は、[ Port status and configuration ]メニュー内において、1000BASE-Xポートの通信モードを [ Half duplex ] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-Xポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社AT-A15、CentreCOM 8216XLとの検証のみを実施しています。

---

### 5. マニュアルの誤記訂正

---

#### 5.1 VLAN 最大設定数について

 「オペレーションマニュアル」2-56 ページ

VLAN 最大設定数の表記に誤りがありました。以下のとおり訂正してお詫びいたします。

① 2,047 個

② 254 個